

# 株式会社ハネダユニテック DX戦略書



2026年3月6日作成  
(2026年3月16日 取締役会承認)

株式会社ハネダユニテック  
代表取締役社長 菅野幸弥

## 1. DX推進の取組宣言

当社は1944年10月に東京都大田区に「羽田通信機器株式会社」として設立しました。その後「株式会社ハネダ」に社名変更を行い、1981年6月に生産拡大の為、福島県二本松市に福島工場を建設し操業を開始しました。工場の立地に関しましては、当時、この地区は養蚕業が盛んで養蚕に従事している方々は真面目で勤勉だと言われていた事からこの地域に建設したと言われております。1989年増田製作所グループへ事業編入し「株式会社ハネダユニテック」に社名を変更、以来82年にわたり事務機器機構部品を始め、自動車部品、家電部品などの多種多様の精密プレス加工、金型製作、溶接、組立の一貫体制で高品質な製品を提供してまいりました。

私たちは「安定品質」「誠実なものづくり」「顧客満足の追求」という考え方のもと、急速に進化するペーパーレス社会と深刻化する人手不足の課題に対応するため、DX（デジタルトランスフォーメーション）を通じて、持続可能なものづくり体制の構築に取り組んでまいります。

### ① 技術伝承のためのAI活用

長年にわたり蓄積してきた生産技術力、検査ノウハウ、熟練者の判断基準をAIに学習させ、誰もがいつでも学び、誰が作業を行っても同じレベルの品質を維持できるようにいたします。これにより、技術の継承と現場力の底上げを図り、人材不足に強い生産力を実現してまいります。

## ② AI活用による生産計画の作成など業務プロセスの効率化と標準化

生産計画などAIを活用した柔軟かつ効率的な生産体制を構築します。製品の納期厳守、各工程の生産効率向上を図るとともに、生産管理および品質保証体制の見直しを行い、業務の属人化を解消しながら業務プロセスの標準化を推進します。顧客に信頼されるパートナーとして新たな価値を創り出してまいります。

## ③ IoTの一層の活用による現場力の強化

IoTを一層活用し、設備稼働状況や品質データのリアルタイム監視・分析を行うことで、予防保全や不良低減を実現し安定した品質と納期を確保します。

当社は以下の3点を基本運営方針としてこれまで長きにわたり歩みを進めてきました。

- ・「創意」 新たに物事を考えだす（独創的な考え）
- ・「熱意」 物事に対する意気込み（熱心な気持ち）
- ・「協調」 性格や意見の異なった者同士の調和を図る（ゆずり合う心）

この新たな困難性と可能性に満ちたこの時代こそ、この基本運営方針をさらに磨き続けなければなりません。これからも創意と熱意と協調の心をもって産業の発展を支え、役立つ会社を目指してまいります。

2026年2月6日

株式会社ハネダユニテック

代表取締役社長 菅野幸弥

## 2. 経営ビジョン

労働人口が減少し、若手有能人材の採用が厳しさを増すなかで、急速に発展するAIやIoTの力を借りながら、この困難な時代のなかで持続可能なものづくりを続けられる会社にしていきます。

- ① AIを技術伝承のために用い、現場力の底上げを図って、人材不足に強い生産力を実現する。
- ② 生産計画などAIを活用した生産体制を構築し、業務プロセスの効率化と標準化を図る。
- ③ IoTを一層活用し、予防保全や不良低減を実現し、安定品質と納期の確保につなげる。

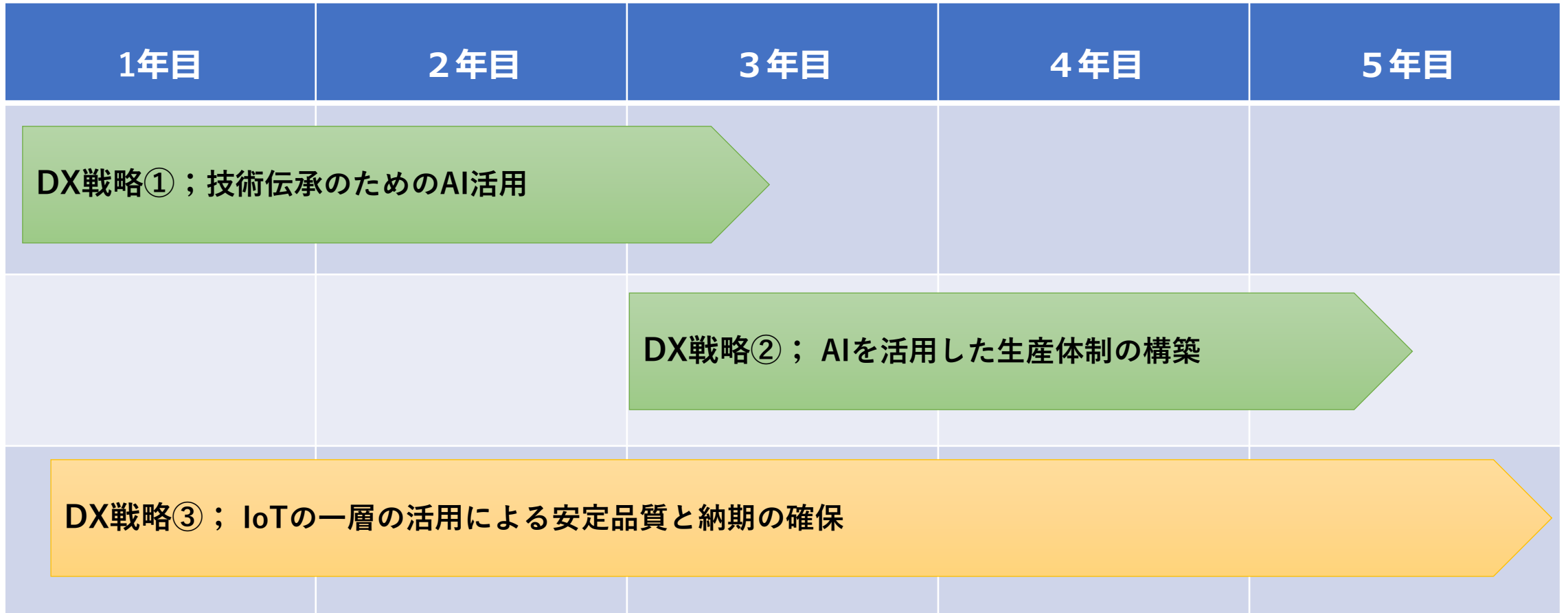
### 3. DX戦略

経営ビジョンの実現を目指して、AIやIoTの力を存分に活用しながら、次のような取組みを進めていく。

- ・ DX戦略①：AIを技術伝承のために用い、現場力の底上げを図って、人材不足に強い生産力を実現する。
- ・ DX戦略②：生産計画などAIを活用した生産体制を構築する。
- ・ DX戦略③：IoTを一層活用し、予防保全や不良低減を実現し、安定品質と納期の確保につなげる。

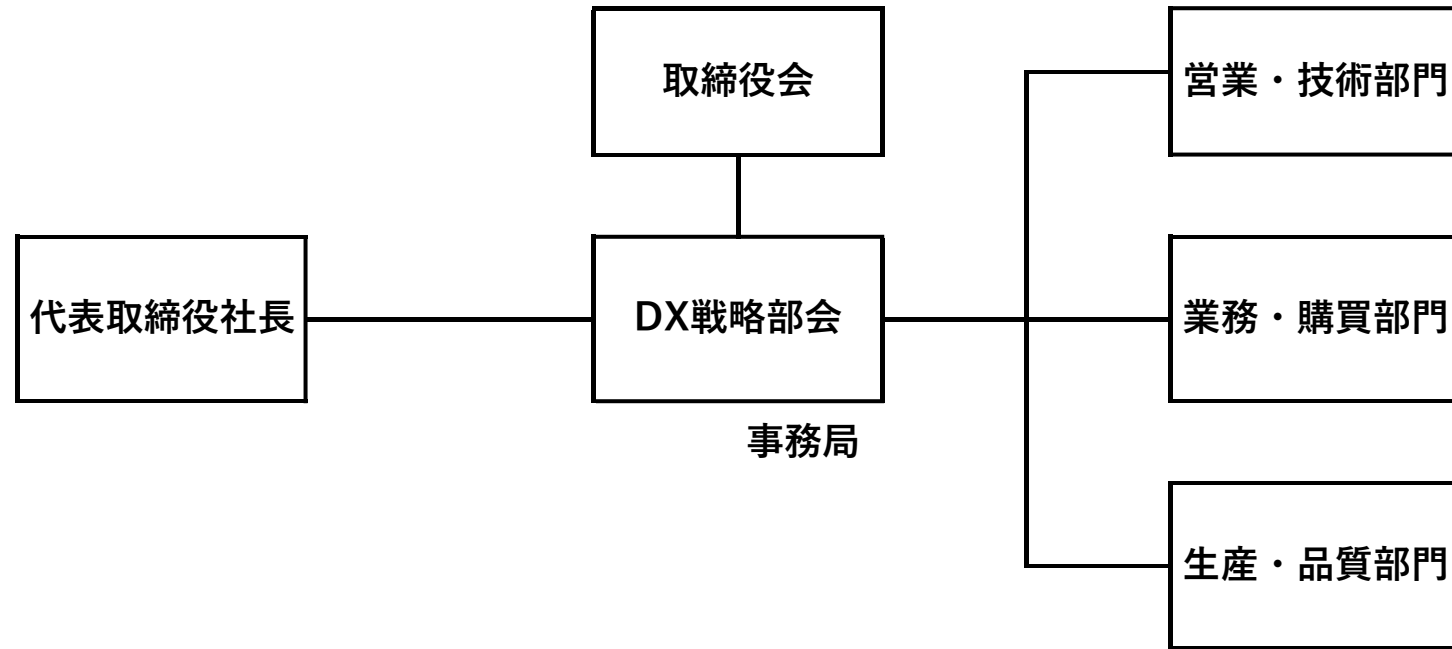
DX戦略①～③の進め方を図示すると、次ページの通り。

## ハネダユニテック DX戦略 進め方イメージ



## 4. DX戦略推進体制および人材の育成

- (1) 当社は、株式会社増田製作所の国内グループ会社であり、同じグループ会社である株式会社マスコエンジニアリングを含め3社は常日頃からともに研鑽を積んできている。DXの推進に当たっても、それぞれ社長直轄、部門横断の『DX戦略部会』を設置し、隔週で共同部会を開催してDXを推進します。



### (2) 人材の育成

デジタル技術活用の核となる『DX戦略部会』は、営業・技術部に事務局を置き毎年継続的に新人を配置します。

『DX戦略部会』では、増田製作所グループ3社の『DX戦略部会』と共同で、AI勉強会を開催し、日本ディープラーニング協会の「G検定」の受験を目指します。

## 5. 環境整備

### (1) 予算

今後ともデジタル技術の活用がハネダユニテックの発展の鍵であることを認識し、毎年売り上げの0.5%をデジタル技術に投資します。

## 6. 数値目標 (KPI)

	DX戦略	目標値 (KPI)
戦略①	AIを技術伝承のために用い、現場力の底上げを図って、人材不足に強い生産力を実現する	<p><b>【生産技術者の暗黙知の可視化 &amp; AI学習】</b></p> <p>① 第1事例の可視化 &amp; AI学習 2026年4月～9月</p> <p>② 第2事例の可視化 &amp; AI学習 2026年10月～12月</p> <p>③ 第3事例の可視化 &amp; AI学習 2027年1月～3月</p> <p><b>【製品検査等でのAIの活用】</b></p> <p>① 第1事例でのAIの活用 2026年10月～12月</p> <p>② 第2事例でのAIの活用 2027年1月～3月</p> <p>③ 製品検査でのAI活用全面展開 2027年4月～</p>
戦略②	生産計画などAIを活用した生産体制を構築する。	<p>戦略①で実践力を持ち始めたAIを適宜組み込んだ生産体制を構築し、生産管理および品質保証体制の見直しを行い、業務の属人化を解消しながら業務プロセスの標準化を推進します。</p> <p>① 実践フェーズ1 2027年4月～6月</p> <p>② 実践フェーズ2 2027年7月～8月</p> <p>③ AIによる生産管理体制の構築 2027年9月～</p>
戦略③	IoTの一層の活用による安定品質と納期の確保	<p>① 予防保全・不良低減強化のためのセンサー増設 ～2027年4月</p> <p>② 増設センサーのデータ分析によるきめ細かな監視・分析による予防保全・不良低減強化 2027年5月以降順次</p>

## 7. 経営者のリーダーシップのもとでのデジタル技術に係る課題把握

- ✓ DX推進指標を用いた課題把握結果：「DX推進指標」自己診断フォーマットver2.4にて自己診断を行い、2026年3月5日にIPAの自己診断結果入力サイトより提出済みです。
- ✓ 受付番号：202603AH00000575

## 8. 戦略実施の前提としてのサイバーセキュリティ対策

- ✓ 2026年3月5日Security Actionの二つ星宣言を実施した。  
自己宣言ID（41100683445）。